

危ない！雪で止まれない電車

軽い車両は雪に弱い



東急東横線元住吉駅事故yhooニュース

2月14日、塩尻駅において1839Mが滑走により、停止現示の場内信号機を約90m内方まで進入してしまったという事象が発生しました。

原因についてはまだはっきりしていないようですが、運転士は降積雪時の運転をしていたにもかかわらず、列車が止まらなかったようです。

軽量化が滑走を引き起こす・・・！？

翌日15日には東急東横線元住吉駅にて列車衝突事故が発生しています。マスコミは「最近の鉄道車両は、車輪と制輪子の摩擦だけで制動するわけではない。回生ブレーキも含めてブレーキが効かなかった可能性がある」としている。もしそうだとすると、「レールの上を車輪が滑ってしまう理由として考えられるのは車両の重量不足である」と近代車両の問題点を指摘しています。低コストに加えスピードアップを求めるが故の軽量化が原因として浮かびあがっています。

ATSやATS-P、ATCなど列車を衝突からまもるシステムは進歩をとげてきています。しかし、それはすべて列車が定められた距離以内に止まるブレーキ力が前提になっています。ブレーキが動作しても効かなくては何の意味もないのです。

無理して運行を続けさせたのは誰

今回の大雪では高速道路をはじめ交通の混乱が多く発生しました。JR東海各線区でも倒木や倒竹、ポイント不転換、車軸の凍結など発生し列車ダイヤは終日乱れました。しなの24号は30時間もかけて名古屋に到着しました。ニュースで繰り返し大雪の情報が流されていきました。外出を控えるよう呼びかけていました。大雪の状態は早くから予測できたにもかかわらず、JR東海は運行を続行させたのです。列車運転の判断をどこで誰が下したのか問わなくてはなりません。

大雪の中奮闘された組合員の皆さんお疲れ様でした！

